

(縁・円・援)

# 兵庫えんだより



このニュースレターは、市町社協の生活支援コーディネーター、住民等が創意工夫しながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします。

## 生活支援体制整備事業 市町担当者・管理者会議 生活支援 CO 基礎セミナー開催

令和6年6月4日、生活支援体制整備事業市町担当者・管理者会議、7月1日～2日に生活支援 CO 基礎セミナーを開催しました。市町担当者・管理者会議では西宮市の活動を元に、チームで進める大切さを確認し。そして、基礎セミナーでは、2日間にかけて徐々につながることを体感していった研修になりました。

### 語り合う 市町担当者・管理者会議

参加者83名

#### 【基調説明】

報告者：兵庫県福祉部 高齢政策課長 横田 陽子 氏

#### 【報告】

報告者：兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部長 福本 良忠  
兵庫県福祉部高齢政策課地域包括ケア推進班 主査 滝本 陽子 氏

#### 【実践報告・討議】

ファシリテーター：兵庫県立大学 環境人間学部 教授 竹端 寛氏  
報告者：西宮市健康福祉局福祉総括室 地域共生推進課 係長 村田 昇平 氏  
西宮市社会福祉協議会 共生のまちづくり推進課 地域支援係  
主任/第1層生活支援コーディネーター 中川 俊亮 氏  
特定非営利活動法人なごみ 事務局長 田村 幸大 氏

### 《基調説明》「生活支援体制整備の今後の展開について」



兵庫県 横田課長

- これからの高齢者支援は専門職だけでなく、地域のさまざまな資源と関わるのが大切。それが高齢者の生きがいづくりにもつながる。
- 高齢者をとりまく環境として、本人の要介護度だけでなく、生活困窮、虐待、家族の問題等は複合的に絡むものである。高齢者の視点だけでなく、庁内で横断的に取り組むことが大切。
- 生活支援体制整備事業は、手引きをもとに「社会的孤立を生まない、豊かで多様なつながりのある地域」を目指し、住民同士のつながりを後押ししていただく。
- 協議体は、住民が参加して活動し続ける協議の場。

### 《報告》「近年の生活支援 CO 養成の取り組みから見てきたこと」

- 近年の会議・セミナーで確認されたこと
  - ・「サービスづくり」に縛られない。
  - ・高齢者をはじめとする対象の再確認。
  - ・異動・孤立に対しての工夫と取り組み。
  - ・協議体に対する固定観念の打破。
  - ・生活支援 CO が関与する意味。
- 第1層 CO の特性と役割について。
  - ・第1層 CO は行政の強力な片腕になる。



県社協：福本部長



兵庫県：滝本氏

- 生活支援 CO の活動は、成果がすぐに出ない、活動の可視化の難しさなどはあるが、地域に出て活動ができる貴重な存在。
- 市町担当者の中には、生活支援 CO との連携に悩んだり、予算確保に苦慮している場合もあると聞く。
- 今後ますます生活支援 CO への期待が高まる。県で得られる好事例などの情報を提供していきたい。

※今回は、紙面の関係上、報告を抜粋し掲載しています。基調報告、各市の報告資料につきましては、各参加者もしくは県社協にお問い合わせください。

【発行元】(令和6年8月23日発行)  
〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号  
兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部  
TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297  
E-Mail: seikatsushien@hyogo-wel.or.jp (担当：富永・永坂)

## 西宮市からの発信！

### 西宮市の生活支援体制整備事業

- 生活支援 CO と地区担当者を市社協に配置。
- 地域福祉計画が上位計画。事業の分野、範囲は、高齢者に限定はせずに地域福祉全般を担う。
- ※役割を担って参加することで介護予防になる。
- 市と市社協の担当者の連携は
  - ① 定例会議
  - ② 地区計画の共有
  - ③ 地域に市担当者を決める。



西宮市：村田氏・中川氏・田村氏

### 竹端先生からの参加者への問い

- お守り介護保険認定を住民が行うのはなぜ？
- 地域福祉計画を知っていますか？

### チームのポイント

- ① 地域に市の担当者が出ていくときに CO と一緒に行く（顔つなぎ）。
- ② 計画を共有し、次の展開を一緒に悩み模索する関係になっている。
- ③ 庁内を横ぐしにする役割（インハウスコーディネーター：田村氏）が機能している。
- ④ 行政職員は、雑談が少ない。そこで、会議室をカフェにする「未来づくりパートナーズカフェ」（雑談しながら情報交換しましょう）を定期的に開催している。
- ⑤ 連携は相手のメリットを先に考える。Winwinの関係。（田村氏談）

POINT

### 《演習》「市町担当者としての悩み・葛藤」

## もやもやと納得!!

### もやもや

- 庁内連携が一番難しい。
- 異動が多く機能していない。
- 委託先に命令していないか。



### 市町担当者の声

- 雑談が大事。自分の地域に出る。winwinの関係。
- 対象を高齢者に限定しない。
- 地域福祉計画も読む！

生活支援 CO の声

第1層（行政）と地域の板挟み。



生活支援 CO の声

なんでも聞いてほしい、相談に乗ってほしい（いい関係に）。

### もやもや

- 自分の組織内の連携も大変。
- 仕組みが先か、既存のものをいかすか。
- 担当者の異動が多い、庁内連携してほしい。

### 管理者の声



### なっとく!

- 連携は相手のメリットを考える（win-win）。
- 介護保険計画と地域福祉計画両方を意識する。
- 1層、2層、担当者の意識、目標が一緒。

生活支援 CO の声

対象を限定しないことで事業や取り組みが広がる。

### 講師のコメント



講師：竹端氏

※今回は、紙面の関係上、意見の多かった声を掲載しています。

POINT

- この事業の方向性は地域福祉計画を意識する必要がある。だから高齢者だけやればいいのではない。
- できない理由を考えるのではなくどうしたらみんなではできるだろうか how can I から how can we do it? どうしたら協力的にできるか。



# 語り合う生活支援 C0 基礎セミナー

参加者53名

**POINT**

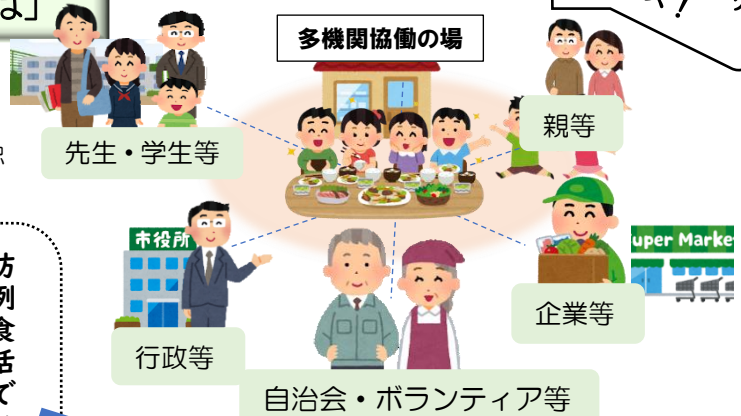
多様なつながりのチャンス!

## 1日目

### 《報告》「生活支援体制整備事業とは」



説明  
兵庫県社会福祉協議会  
地域福祉部長 福本 良忠

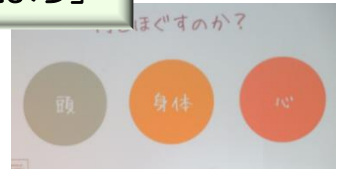


大切なのは、環境を整え自然と介護予防に効果のある環境を作っていくこと。例えば、高齢者も子どもも参加する地域食堂。そのために日常的な支え合い、生活者の目線を大切にして身近な生活圏域で話し合える場をつくる。地域の力を信じて活躍を応援する。

高齢者の参加・役割が自然と介護予防へ

### 《演習》「まずは知ろう」「もやもやを解きほぐす」「そして伝えよう」

進行：特定非営利活動法人なごみ 事務局長 田村 幸大氏  
進行補助：香美町社会福祉協議会 森田 洋子氏  
播磨町社会福祉協議会 安川 尚希氏  
西宮市社会福祉協議会 中川 俊亮氏

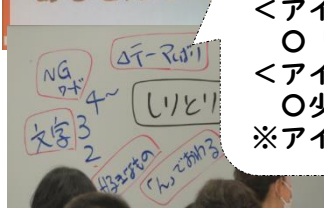


知る



講師：田村氏

あるを知る



テーマは「知る」

<アイスブレイクの目的>

- 「頭」と「身体」と「心」をほぐす。

<アイスブレイクのポイント>

- 少しだけほぐす（やりすぎると疲れる、固まる）
- ※アイスブレイクは「知る」につながる。

もやもやを  
ときほぐす



森田氏・安川氏・中川氏



**講師のコメント**

○もやもやは取れない、ずっと続く。相手は人だから、分からないことをわからないまま止めないこと。チャレンジが必要。

**POINT**

**ネットワーク委員からアドバイス**

○2層 C0 はさまざまなネットワークをつくる。1層 C0 は2層 C0 の後ろ支えをし、2層 C0 からあがった課題を行政につなぐ。  
○会議…下準備が大事。参加者の関心ごと、背景を知る。

伝える



**講師のコメント**

○すべてのグループが自己開示を行っていた。しゃべりたいと思う気持ちは、地域住民も同じ。3分の発表に1時間かけた。3分では伝わらない。しかし、メンバーは話し合いの内容を知っている、あきらめないこと。

**POINT**

## 「話し合う？対話って何だろう？」

進行：兵庫県立大学 環境人間学部 教授 竹端 寛 氏  
 登壇者：特定非営利活動法人はなのいえ 理事長 内海 正子 氏  
 たつの市社会福祉協議会 地域福祉課 副主幹 藤井 智 氏

○本人が真ん中の街づくり  
 ○地域の人たちと仲良くなる。それがネットワーク。  
 ○支援者は支援が1番になり、相手のこと考えてないことがある。  
 ○まず、一緒にやってみる。住民の話は断らない。



内海氏・藤井氏

○住民との対話の中にヒントがある。  
 ○住民が困ったときの情報提供がきっかけになった。  
 ○対話とは、住民との会話の中で、その地域や人が必要としていることを知る方法。  
 ○住民同士の会話から、様々なことを教えてもらう機会。

## 「先輩 CO から話を聞こう」

登壇者  
 福崎町福祉課 地域包括支援センター 生活支援 CO 福岡 さやか 氏  
 淡路市社会福祉協議会 地域支えあいセンターほくだん 第2層生活支援 CO 上林 ちか子 氏  
 相生市地域包括支援センター 第2層生活支援 CO 庵奥 真寿美 氏



福岡氏・上林氏・庵奥氏

○不安や悩みがあるときは、えんがわナビでつながった。  
 ○良い変化は、協議体や地域活動で、意欲的に考えられるようになったこと。  
 ○他の市町の活動を知って、市町の規模は違っても、住民は変わらない。課題を協議し、自分のまちに置き換えて、どうすればたどり着けるか考える。そのプロセスが大事。(福崎町：福岡氏)

○研修でモヤモヤ沼にはまっているのは私だけでない。先輩の話にヒントがあった。  
 ○知ってもらおう大作戦。出会ってなんぼの上林、地域の人とつながるために顔と名前を集合写真で覚え、車では中道を通り必ず手を振る。  
 ○会う、繋がる、お願いできる、一緒にできる形ができていた。(淡路市：上林氏)

○いきなり包括で生活支援 CO。不安な中、個別支援や知人のつながりを活かした。  
 ○方向性は、住民との協議の中から生まれる。  
 ○年度が替わって人が変わることは、仲間を増やすチャンス  
 ○相手の得意、不得意、持っている繋がりを生かす。  
 考えを共有できる仲間が大事。(相生市：庵奥氏)



講師：竹端氏

いかに住民の力を引き出すか。試行錯誤すること。最初から成功しなくていい。試行錯誤とは、小さくためして、小さく失敗する、失敗したことを次どうしようかと考える。

**POINT**

## 今回の注目 「えんむすびカフェ」



大盛況！



語る！聴く！笑う！



ピンクのエプロンがよく似合う！



### 「えんむすびカフェ」

今回の企画は、雑談しながら情報交換をしている、西宮市役所の会議室をカフェにする「未来づくりパートナーズカフェ」を参考にさせていただきました。基礎セミナー終了後、新人、ベテラン関係なく約30名が一緒にお茶とおしゃべりに花をさかす。縁を結ぶカフェになりました。



【編集後記】今回は、市町担当者・管理者会議と生活支援 CO 基礎セミナーを合わせて紹介させていただきました。どちらも、県と県社協とネットワーク企画会議のメンバーが、話し合い、積み上げてきました。このプロセスを経て、学びが、経験が、つながりが、広がってきたことを実感するこの頃です。